



二十六聖人

2023年10月号

No.362 (2023年10月1日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言：ロザリオ - イエス様と聖母マリアの交わりへの招き

いよいよロザリオの月を迎えました。ロザリオの月とは、信者の皆さんがロザリオの祈りを通して聖母マリアの取り次ぎを祈り求める月です。その取り次ぎとは、わたしたちのための聖母マリアの祈りで、特にロザリオの祈りは、イエス様の道を共に歩まれた聖母マリアを黙想しながらささげるようになっています。実に、ロザリオの祈りは、イエス様の誕生の予告から聖霊降臨までの救いの御業がまとめられた十八の出来事と、教会の聖なる伝承に基づいた聖母マリアの被昇天、それに、聖母マリアが天の女王となられた神秘にわたしたちを導きます。そして、そのイエス様の救い主としての道を、聖母マリアがどのように共に歩んだのかを黙想するよう、招いてくれるのです。そこでロザリオの祈りは、単に自分の願いをかなえていただくための祈りではなく、マリアの精神を学ぶための祈りであり、その精神を通して信仰者としての道を歩み抜ける力を得るための祈りなのです。

このロザリオの祈りは全部で四つの神秘となっていて、更に、その一つ一つの神秘は、それぞれ福音の五つずつの出来事や教会の聖伝、つまり聖なる伝承となっています。詳しいことは信者の皆さんもご存知だと思いますが、その四つの神秘は、福音に記されているイエス様の救いの御業を順番に並べたものです。そこで、ロザリオの祈りの内容を覚えることだけで、福音の大事な出来事が分かるようになり、それを黙想することによって、イエス様と聖母マリアの霊的な一致に与ることができるわけです。その霊的な一致とは、イエス様と聖母マリアの霊的な交わりであり、イエス様と教会の交わりのしるしでもあります。言い換えれば、教会はロザリオの祈りを通して、聖母マリアがどういう姿勢を持ってイエス様と交わったのかを学び、また、悟ることができるのです。

その姿勢をはっきりと現わす福音の御言葉があります。それは、「わたしは主のは

したためです。お言葉どおり、この身になりますように。」という御言葉です。

(ルカ 1、38) これは、信者の皆さんもご存知の通り、聖母マリアがイエス様の母親となるという神様のお告げを受けたときの言葉です。この言葉から、教会は聖母マリアの神様への従順と謙遜の精神を見い出したわけです。そして、その精神があつてこそ、神様の救いの御業、すなわち、イエス様の十字架の御業が成し遂げられたとも告白するのです。まさに聖母マリアは一生、その神様への従順と謙遜を忘れず、その精神を通してイエス様と一致し、交わったのでしょうか。そこで、聖母マリアの生涯は、イエス様との霊的な交わりを示す優れたしるしであるとも言えると思います。

じっくりと考えてみたら、聖母マリアの生涯は、まるで、人間としては理解できな

い出来事だらけだったでしょう。その人間の常識や知恵、知識や経験をはるかに超えた神様の計画を、聖母マリアはただ謙遜と従順の精神をもって受け止めました。人間的な葛藤や様々な悩み、疑いや苦しみ、涙や絶望の中でも、聖母マリアは神様への謙遜と従順の精神を保ち、それによってイエス様の母親としての道を歩み抜けたでしょう。そして、わたしたちに信仰者の優れた模範を示してくださったのです。ロザリオの祈りは、その一つ一つの神秘や出来事に向けた聖母マリアの姿を黙想するように、わたしたちを導いてくれる祈りです。この一ヶ月の間、ロザリオの祈りを通して、イエス様と聖母マリアの交わりに深く与るのはいかがでしょうか。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

2023年9月教会委員会報告 (開催日：9月3日)

【信徒意見への対応】

皆様から頂いたご意見に対する討議結果をご報告します。

意見-1 「正しいミサの与り方を教会全体に広めてほしい。」(ある場面でお辞儀する人としらない人がいるので正しいほうに揃えたいという意見です。)

討議結果：ミサのすべての場面には意味があり、それに相応しい所作なら、これが正しく他は間違いということはありません。しかし、お辞儀がバラバラなのは好ましくないので、ミサ中に何度かに分けて、神父様に所作の解説をして頂くようにします。

意見-2 「ミサのとき以前のように名札をつけたらどうか。」

検討結果：ミサのお知らせを通じて、名札着用の再開をお願いすることにしました。しかし、今までと同様、これは強制ではありません。

【検討事項】

現バザー委員会は9月24日に解散となります。理由は下記の通りです。

理由：教会のバザーのあり方について、姜神父様からの話を聞いてバザー委員会より新しい体制で臨むべきとの意見が出まし

た。そこで、本年度の従来の形のバザー（10月29日開催）は見送り、教会委員会が中心となって体制を組み直し、準備をしてみります。年内開催を目指しますが、具体的な日程は未定です。

【報告事項】

1. 敬老の集いに87名（内、米寿5名、喜寿6名）の方が参加予定です。
2. 二俣川教会訪問者のための小冊子が完成しました。
3. 10時ミサ後の清掃の準備・片付けを9月10日から地区掃除当番に移管します。
4. 典礼委員会
10月口ザリオの祈りは、週日はミサ20分前から一連、主日(土)17時、(日)10時はミサ20分前から一環、主日(日)7時は行いません。
5. 教会学校
①8月20-21日のサマースクールに子供達約30名（内10名は保土ヶ谷教会）が参加しました。青年、リーダー他、様々な人の支援に感謝します。
②9月9日から堅信勉強会を始めます。（土曜17時ミサ後、日曜10時ミサ後）
③青年会とともに9月10日敬老の集いに向けてお祝い動画を作成しました。
6. キリスト教講座
12月3日堅信式に向けて13名の方が堅信講座を受講されます。また、12名（受洗希望者7名、信徒5名）の方がキリスト教入門講座を受講されます。
7. 福祉委員会
横浜療育医療センターから当教会を訪問したいとの依頼がありました。また、当教会

の青年が同センターを訪問して欲しいと同センターから要望されました。

8. 青年会

①7月9日「わかちあいたいかい」参加者は約90名でした。サポート役の方々に感謝します。

②保土ヶ谷教会の青年と協力して、8月20-21日に約30名でサマースクールを行いました。これは、教会学校サマースクールとのコラボ企画です。

③7月16日に韓国訪問募金集めの為の飲食物販売を行いました。9月も行います。

9. 共同墓地委員会

7、8月の利用申し込みは計8名（生前予約1、埋葬7）です。

10. ヨゼフ会

8月は活動休止。敬老の集いにコーヒー提供、17日に例会予定です。

11. マリア会

7月30日と8月27日にボリビア支援グループ「のんびり日曜日」を開催し、支援のジャム販売を行いました。

12. インターファミリー

7月18日、8名で、アルペなんみんセンターを訪問しました。難民への経済的支援が一番重要と思っていましたが、実際は難民の方々との交流をうまく生み出すこと、難民の置かれた状況を発信していくことのほうが切実な問題だと感じました。

13. 一粒会

①10月9日第55回一粒会大会への当教会参加者は神父様と信徒20名です。

②会員募集キャンペーンを行います。新規だけでなく、休眠会員の再開もお願いします。

以上

わかちあいたいikai

第10回テーマ『私にとっての教会とは？～コロナを経て～』

7月9日に行った「わかちあいたいikai」では、ミサ後に残ってくださった80名以上の方に参加していただき、テーマであったコロナ禍のことや自分にとって教会とは何か、それぞれわかちあう貴重な時間となりました。サポート役や小さい子どもたちの見守りなど、青年会だけではできないことをお手伝いくださった皆様、ありがとうございました。お陰様で、普段はじっくり話をする機会の少ない子育て世代の方々も参加することができました。久しぶりのわかちあいたいikaiでしたが、実りのある時間となりました。来年以降も開催できるように進めていきたいと思えます。今後ともよろしくお祈りします。 青年会

参加者の有志の方に感想をお書きいただきました -----

「わかちあいは祈りのようなものです。」当たり前ですが、みんなそれぞれ違う想いを胸の中にしまっていて、それをここでは安心して出しているですよ！と言われた場所を出してみる。しかも、受け止めてくれる人がいる。そんな機会がきっと人にとって必要なだどつくづく感じた時間となりました。今回は、しまっていた時間が長かったせいか、溢れ出したものも多かった気がします。みなさんの話を聞いていて2つの事を感じました。

教会のメンバーひとりひとりが、初めて教会にきた人や、新しい信徒さんを歓迎している雰囲気を持っているのでしょうか？これまでの人間関係を大切にすることも大事だけれど…特に、コミュニケーションがとりにくかったここ3年位の間に教会メンバーに加わった方々にもっと積極的に関わっていければいいなと思えます。

もうひとつは「居場所」の必要性です。教会が誰にとっても居場所となるような取り組みがあると良いなと思えます。先輩方、働き盛りの忙しい世代、子育て世代、青年、中高生、小学生、乳幼児、この教会に長くいる方、最近きた方などが気軽に、わかちあいたい！と話せる、飲食できるスペースなどがあるといいのかな？いつでも、神さまを囲んで「わかちあいたいikai」できる日曜日のランチタイムを勝手に妄想しています。笑

モ二カ Y. J.

この度神様が集いに加わることをお許しくださり、はじめて"わかちあいたいikai"に参加させていただきました。お互いの自己紹介のなかで信者となった経緯をはじめ、コロナ禍で突然御ミサに集うことが難しくなったこと、その時のお気持ちなど興味深く拝聴いたしました。また私は受洗して間もない新米信者のため、実際の生活における些細な疑問についても皆様がお気遣いくださりご親切にお答えくださいました。「分かち合い」という言葉とその意味を、私は昨年入門講座ではじめて知りました。お互いの話を、心を込めてひたすらに聴き合う場に否定も肯定もなく、共感したりまた自分との価値観の違いに気づいたり。うすぼんやりとしていた自分自身の輪郭が少しはっきりしてまいります。そうして他者との交わりのなかで生かさ

れている小さな小さな自分を見つけ、大いなる神様を賛美する共同体の一員である喜びに満たされます。この日皆様にいただいたあたたかな気持ちを、そのまま家庭に持ち帰ることが出来ました。

姜神父さま、主催して下さった青年会の皆様、サポーター役の森山様をはじめEグループの皆様方、そして娘を預かりたつぷりと遊び・学ばせて下さったリーダーの皆様、本当にありがとうございました。私たちはいつも御ミサの中で「主の平和」とお互いに挨拶いたしますが、より心を込めて教会共同体の平安をお祈りし、頭を下げられるようになったことを何よりも神様に感謝いたします。

リタ K. Y.

分かち合い大会、初めてださせて頂きましたが、コロナ前の様子など、私はまだ知らない教会のことを知れて大変勉強になりました。今はミサが当たり前に行えることの大事さ、改めて、それは神父さまの努力や信者さんのお力のおかげなんだと、ミサを以前よりもっと、神聖なるものに感じました。教会のみえない力のパワーを感じ、主にまもられていることの気づきを感じることの大事さをあらためて考えさせられました。このような会に参加できて、大変嬉しいです。またみなさま宜しくお願いします。

S. M.

ミサに与ったらお喋りせずにさっさと帰りましょう、聖書勉強会も聖歌隊も手芸の会も休会、教会行事はやりません、という散々な3年間でした。休会中に引退する人はいても新人は入ってこないし、3年前なら普通にできたことが歳のせいでは出来なくなったと嘆く意見にはとても共感しました。活動を再開するにも数か月の中断を再開するのは質の違う難しさがあると思います。しかし、聖霊の働きに依り頼んでみんなが協力すればきっと上手くいくと信じます。

そんななかでバザーの再開を楽しみにしている女性が多いようです。献品する側にしたら不用品の有効利用、買う側から見れば掘出し物の発見なのだそうです。筆者はショッピングにさほど興味がないので何とも言えませんが、教会行事の大切さは強く感じています。掘出し物を見つけて喜ぶ人がいれば、準備したスタッフも嬉しい。教会行事にはそんな喜びの連鎖を生み出す力があると思うからです。ある信徒が「喜びがなければ教会じゃない」と言っていました。至言ですが少し付け足したいと思います。あなたの喜びが私の喜びでなければ私たちは教会じゃない。

ヨハネ A. N.

「教会は私の霊的里帰り～わかちあいたいかいを終えて～」

コロナ禍の真っ最中に洗礼と堅信のお恵みを頂いた私は、教会で交流することがほとんどできなかつたため、手探りで信仰生活を始めなければなりませんでしたが。でも、今回のわかちあいたいかいで、先輩の信徒の方々がコロナ禍にあってもお祈りや教会訪問、オンラインミサで信仰と希望を紡いでつなげて下さっていたことを知ることができました。また、これからの教会のあり方についても示唆に富むお話を聞かせて頂きました。信仰を通じた兄弟姉妹の皆様と会える教会に来るということは「霊的な里帰り」なのだな、と実感した一日でした。またの分かち合いを楽しみにしております。

マグダラのマリア S. S.

わかちあいたいかに参加して感じた事は、第一に同じテーブルに参加された方の、人となり、教会に対しての気持ち、奉仕についての考え方、学校での生活など何う事ができ新たな気づきを得る事が出来ました。そしてなにより、普段お話しをする機会がない方々と、お話しができた事は、感謝でした。新たな気づきでは、教会の奉仕の考え方として出来る事を大切にしたいと話をされた事は、神様との関係で目立たない奉仕だが誠実に行う事が大切である事なんだと感じられた事です。参加された方々との会話の中で、教会は自分の気持ちを整える場所であり、年齢を重ねても必要を感じているとの事でした。この事を伺って自分の内面の在り方について考える事がない、いつも課題を抱えている生活を送っているため、内面について考える必要がある事は気づきでした。最後に、会話の中で沢山発言された言葉は、子どもが少ない、若い人が少なくなっている事でした。私もこの事は強く感じています。次回、信仰をどのように伝えるか、若い方々に教会に来て頂くためにはなど、話し合える機会があればと希望しています。

ニコラオ S. Y.



二俣川教会 ニュース

- 二俣川教会紹介のパンフレットが完成しました。教会事務所の受付前に設置しております。ご活用ください！
- 9月10日(日)、ごミサの中で敬老のお祝いを行い、その後2階集会室に歓談の場が設けられました。お祝いの様子は「二十六聖人」11月号でご紹介します。
- 10月21日(土)から23日(月)まで、青年会有志(高校生1名含む)と姜神父様が韓国を訪問します。コロナ禍前からの念願だった訪問で、6月から定期的にドリンク販売を実施し売上を費用の補助にあてました。訪問の充実と安全をお祈り致しましょう。



皆で祈りましょう！

下記の祈りは、ともに喜びをもって福音を伝える教会へ「福音宣教のための特別月間」(2019年10月)に向けての司教団の呼びかけの中で公開された祈りです。

ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り

喜びの源である神よ、

あなたは、御子キリストを遣わし、

その受難と復活を通して、救いに導く喜びの福音を

この世にもたらしてくださいました。

また、あなたは、キリストの後に従う働き手を通して、

諸国の民に福音を告げ知らせ、どんな逆境にあっても、

キリストを信じる人々の喜びを支えてくださいました。

さまざまな困難に直面している現代社会の中で、

人々の救いに奉仕する教会を顧みてください。

キリストの救いの喜びを

新たな熱意、手段、表現をもって伝えることができるよう、

わたしたちを聖霊によって強めてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(2019年3月17日)

たのしかったね！サマースクール&サマーキャンプ

8月20日(土)21日(日)に保土ヶ谷教会と合同のサマースクールとサマーキャンプが行われました。30名ほどの幼児さんから高校生までの参加者、幼児さんの保護者の方々、そして両教会の青年会のスタッフが集まり、久しぶりに教会に子どもたちの声があふれていました。

コロナ禍を超え、改めてみんなが集うことの大切さ、みんなで歌うことの楽しさを感じる2日間となりました。すてきな2日間をくださった皆さまありがとうございます！！



「このゆびとまれ！」をテーマに、イエスさまのお話を聞きました。「わたしはぶどうの木。あなたがたはそのえだである。わたしにつながっていなさい。」皆さまに集められたわたしたち、ぶどうに自分の名前とすきなものをかきました。Kさんに準備からたくさん手伝っていただき、すてきなぶどうの木が完成しました！ありがとうございました。

神父様のギターの伴奏で、たくさん子どもの聖歌を歌いました。初めて子どもの聖歌を歌った子どもたちもたくさんいました。久しぶりの子どもの聖歌にいちばん感動していたのは、青年やリーダーたちだったのかもしれませんが。みんなで歌って神さまをたたえることのすばらしさを教えてくれた時間でした。



お楽しみ会では、縁日風に輪投げ、ボーリング、あてくじ、ヨーヨー釣りをしました。小学生からはグループで、幼児さんはお家の方や、青年のお兄さん、お姉さんと回りました。ヨーヨー釣りはねらったヨーヨーを釣るまでずいぶん時間がかかったお友だちもいましたが、うまくいかないことも楽しんでいました。

最後に前庭でなんちゃってスイカ割りをしました。ビーチボールのスイカをタンバリンの音を頼りにあてていきます。最後には神父様もチャレンジしてくださって、みんな大喜びでした。

クラフトを指導してくださったKさんをはじめ、子どもたちの活動にと寄付をしてくださった方、おやつをたくさん差し入れてくださった方、夕飯を準備してくださった元保護者会のパパママ…本当に多くの方々を支えられた夏企画でした。本当にありがとうございました。

今回のサマーキャンプは... 4年ぶりに、そして保土ヶ谷教会と合同で小学生から高校生を対象に行いました。久しぶりにサマーキャンプを行うことができるようになり、"子供たちに何を感じてもらいたいか"と考えた時にスタッフ全員が思ったことは、「教会に友達がいることの喜び」と「神様に集められていま私たちがいる」ということでした。神様に集められた私たちが新しい友達を見つけ、そして神様の愛を見つけてほしい。そんな気持ちを込めて、今年のテーマは「このゆびとまれ」、そしてサブテーマとして「みいつけた」としました。



サマーキャンプは夕方のお風呂からスタート！お風呂の送迎と夕食作りはスタッフの親たちが協力してくださいました。おいしいハヤシライスをみんなで食べてから、夜の企画。普段ミサで使っている祭壇のろうソクは毎ミサ後に神父様がきれいに削ってくださっているのですが、その削り粉を使って、新しいろうソクを制作。容器の飾り付けからろうソクの色までそれぞれの個性が出ていました！その後は夏らしい花火企画。そして聖堂に戻っての夕の祈り。自分たちの作ったろうソクの光の中、1日を振り返り感謝してお祈りしました。

2日目最初の企画は班対抗料理対決。「冷やし中華」をテーマに、くじで引いた色の具材を班の中で話し合って選び、買い出し&調理をしました。午後の企画では、小学生はかくれんぼ、中高生はわかちあいをしました。かくれんぼでは、実際に「このゆびとまれっ」から始まり、「みいつけた！」と声に出しながら遊びました。中には上手に隠れて、全然見つからない！！なんてことも。わかちあいでは、中高生となり学校や遊びなどの行動範囲が広がって物理的に外へ出ていく機会の増えた今、「とどまる」ということについて考えてみました。1日目のサマースクールから繋がる、「イエスはまことのぶどうの木」(ヨハネ 15章)から、「父がわたしを愛されたようにわたし



もあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。」をキーワードに、神様の愛とは？愛にとどまるとは？をわかちあい、それを元に共同祈願を作りました。そして今回、「このゆびとまれ」と呼んでくださった神様のもとに手を伸ばしていることをイメージして手形を貼ったボードを作成し、祈りを込めて最後のミサで奉納しました。顔を見合わせながら、1人1人と平和のあいさつをするミサはとても新鮮でした。

教会の皆さんのお祈りとご協力のおかげで、2日間を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。そして何より、子供たち同士が仲良くなって自由時間にもみんなで遊んでいる姿、コロナ禍で聖歌を知らなかった子供たちが「楽しい」「この歌好き」と歌っている姿を見ることができました。そしてその瞬間を共にすることができて嬉しく思いました。「また来たい」と笑顔で帰っていく子供たちと「また日曜日に教会でね！」とさよならしたときに、このサマーキャンプの意味を感じることができました。子供たちの新しい出会い、そして子供たちとスタッフの新しい出会いに導いてくださった神様に感謝しています！



教会学校 & 青年会

ナン神学生にナンでも聞いてみよう！ 番外編 『フィ神父様の司祭叙階式報告』



お陰様で私は、今年の夏休みに久しぶりに里帰りすることができました。この期間でフィ助祭様の司祭叙階式にも参加することができました。私の修道会では今年も、新たな10人の新助祭とフィ神父様を含めて8人の新司祭が誕生しました。本当におめでたいことで、感謝すべきことです。フィ神父様の叙階式を、YouTubeなどを通してご覧になった方もいらっしゃると思いますが、直接参列した者の気持ちで報告させていただきます。

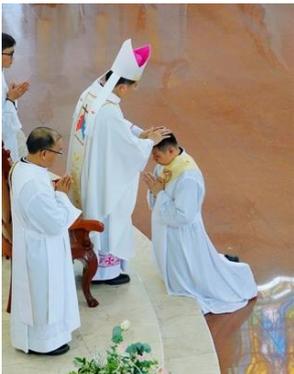


叙階式は2023年8月10日、PHU CUONG 司教座聖堂にて行われました。私の修道会の本部から約3キロ離れたところにある教会で、高いところに建てられ、美しく綺麗な聖堂です。今年は助祭叙階式と司祭叙階式とが一緒に行われました。ミサと叙階の儀式は、午前8時から約3時間、PHU CUONG 教区の教区長ヨセフ NGUYEN TAN TUOC 司教様による司式で執り行われました。横浜教区の梅村昌弘司教様と

引退された PHU CUONG 教区のペトロ TRAN DINH TU 名誉司教様、そして日本から来られた神父様方を含めて約120人の司祭が共同司式してくださいました。また、このミサに参列された信者さんは、およそ1500人だったと思います。本当に盛大で素晴らしいミサでした。ミ



サの前に、受階者たち、司祭団、司教様方々の順で長い長い行列を作り、約 100 人の修道者連合聖歌隊が歌う美しい聖歌に合わせて司祭館から祭壇に進んで来られました。受階者の皆さんは真剣な、そして嬉しそうな顔で祭壇まで進んで来られました。叙階の儀が始まる時、受階者の呼び出しがあります。受階者の皆さんはそれぞれの自分の名前を呼ばれると、元気な声で「はい」と答えて主司式司教様の前に進んで来られました。これまでに教わった叙階儀式の意義を実際に見聞きし、改めて感動しました。特に按手の儀で司教様方、そして共同司式された神父様方が全員、受階者の一人ひとりに按手なさいました。按手の儀だけで 15 分ほどかかりましたが、これからも神様からの豊かな祝福が受階者の皆さんの上にありますようにと祈り胸が熱くなりました。



叙階の儀が終わると、感謝の典礼に移ります。2 人の新助祭が祭壇で奉仕して下さり、そしてフィ神父様ともう一人の神父様が新司祭として共同司式なさいました。派遣の祝福の前に管区長神父様が修道会を代表して司教様方をはじめ、この叙階式のミサに参加された方々とミサには来られないが心を合わせて祈ってくださっている方々に感謝の言葉を述べられました。そして、梅村昌弘司教様からのご挨拶もありました。遠く日本からお越しくくださった司教様からの言葉を頂いて、受階者だけでなくミサに参列した皆が喜んでいました。ミサの後は集合写真撮影。

誰も喜びの中でニコニコしながら新助祭と、そして新司祭たちと一緒に写真を撮りました。本当に素晴らしく感動的な叙階式でした。

フィ助祭様の司祭叙階式の様子を、少しでも皆様に伝えられたら幸いです。そして、このような素晴らしいことを心に留め、司祭職の道の第一歩を踏み出した私たちの新助祭と新司祭、特にフィ新司祭のため、また福音宣教に出かけられた司祭、修道者のためにも引き続きお祈りください。どうぞよろしくお願いいたします。

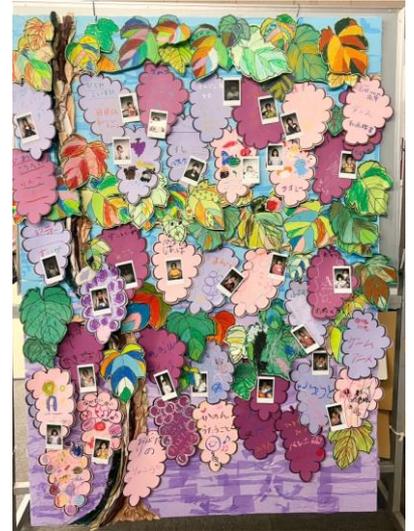


～靈的花束をフィ神父様へ～

この夏、一粒会からの呼びかけで、フィ神父様の司祭叙階に向けて靈的花束を集めました。初ミサで二俣川教会に来られたときにこちらをお渡ししたいと思えます。

今年の夏は何回、暑いねって言ったことでしょうか。毎日の温度について口癖になって、誰彼構わず顔を合わせれば、そう交わし合っていたように思います。その暑くてたまらなかった日に、私は素敵な体験をしました。

私は子どもたちとモノづくりをするのが大好きです。時々教会学校の子どもたちと、一緒に創作活動をするチャンスを得ています。今年のサマースクールでは、みんなで葡萄の木を作りました。事前準備として、粘着パネルに葡萄の木と背景のブルーを貼っておきました。当日集まってきた子どもたちの人数の多さと幼さにびっくり。しかし、間違いなくお絵描きの好きな年齢の子たちで、もうワクワクです♪いざ事前に切り抜いて



おいた葡萄の葉と房に、クレヨンを握って創作！そして、あっという間に描き終えた子どもたちが、次から次へとパネルに貼るために列を作ります。作品を受け取り、ボンドを付け、ピンで仮止めする作業が続き、パネルはどんどん葡萄の葉と房で埋まっていきます。

作品を持ってくる子どもたちとのおはなしも楽しいです。淡いピンクの房の紙の上に、淡い黄色でお名前を描いてくれた小さい人に、「お名前上手に描けているけどちょっと見えにくいね！もっと濃い黄色もあるよ」といつものようにアドバイスすると、間髪入れず「いや！」凛としっかりした顔つきで、自分の意思を主張してきました。こんなに小さいのにお見事です。列の流れが止まったのに気づいたリーダーが直ぐにやってきて「どうしました？」「今、ちょっと相談中。」状況を説明すると、リーダーは小さい人の肩を抱くように「リーダーも黄色が好きだから、気持ちすっごくわかるよ。」話しながら2人で机に戻って行きました。

次に持ってきた時、お名前は黄色から赤になっていました。その間、どんな話し合いが行われたかはわかりませんが、私はリーダーの寄り添い方が見事だと思いました。子どもたちは、安心して創作する事が出来ていたと思います。

この夏、ただ暑いだけじゃなかった、感動のエピソードが今心に残っています。

マリア会 K. M.

図書係からお知らせです！ 子どもの本が入りました。

- ① 『へいわってすてきだね』 詩 安里有生 画 長谷川義史
- ② 『恵みの風には帆をはって ペト口岐部と 187 殉教者物語』 「まるちれず」編纂委員会 ドンボスコ社

【編集後記】

6月から続いていた暑さもやっと最高気温が2～3度下がってきたのかなという状況になりました。8月発行の9月号を休ませていただきましたので、今号は、久しぶりの『二十六聖人』です。7月に行われた「わかちあいたいかい」や8月の子どもたちの夏企画など、色々な配慮に満ちた温かいイベントのご報告を掲載できたことを嬉しく思うと同時に感謝しております。来月号もまた教会の動きを満載して発行できますよう頑張りたいと思います。最後になりましたが、司祭叙階されたフィ神父様に心からのお祝いを申し上げます。 (N. F. 記)